



Myopine



本製品はAtropine (アトロピン) 0.01%配合の お子様の近視進行を抑制する目薬です。

Myopine (マイオピン) は、学童期の近視の進行を抑制させることを目的にアトロピンを 0.01% 配合させた点眼薬で、Singapore National Eye Centre (SNEC: シンガポール国立眼科センター) の下記の研究に基づいて開発されました。¹⁾

マイオピン点眼液の 特徴

- 副作用が少ない良好な近視進行抑制点眼薬です
- 近視の進行を60~70%抑制すると報告されています
- 目の遠近調節機能 (短焦点機能) に殆ど影響を与えません
- 近見視力に殆ど影響を与えません
- 毎日、就寝前に1滴点眼するだけの、非常に簡単な治療法です
- 1本で、両眼に約1ヶ月間使用可能です
- 本製品はGMP (医薬品製造管理および品質管理基準) 準拠の薬品会社により製造されています

◎アトロピンは、その薬理作用で、毛様体弛緩作用による調節の遮断、眼軸長の伸展の抑制 (眼軸長・眼球の長さ・が伸展することで近視が進行すると考えられています) などが期待され、近視の進行を抑えることが以前から知られていました。

マイオピン点眼薬は近視のお子様 (6歳から開始可能) への処方が推薦されており、

処方の際は最低2年間使用を継続して下さい。

また、近視になることを予防する効果も期待されています。

近視が治るわけではありません。あくまでも、近視の進行を抑制することを目的とした点眼薬治療です。

この点眼薬は日本では未承認です。

当院では院長が自ら医師免許証を提出し輸入しております。

診察後、直接院長と面談の上、承諾を頂いたうえで、治療を開始いたします。

健康保険の適応はなく、自由診療になります。

近視の進行を抑制することが大切な理由

近視、特に強度の近視は、将来的な黄斑変性症、網膜剥離、または緑内障等に発展するリスクファクター（危険因子）とされています。最近の研究によりますと、東アジア諸国、シンガポール、台湾、香港、及び日本での近視の有病率及びその重症度は増加する傾向にあることが指摘されており、具体的には60～80%の青年が近視を患っており、15～20%が強度近視であることが確認されています。本傾向は各種メディアによる視力への悪影響、更に様々なストレスの増加に起因すると考えられています。

(参考文献)

1)

Chia A, Chua WH, Wen L, Fong A, Goon YY, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: changes after stopping atropine 0.01%, 0.1% and 0.5% (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン0.01%、0.1%、及び0.5%を点眼終了後の変化). *Am J Ophthalmol*. 2014 Feb (眼科:2014年2月); 157 (2) :451 - 457. e1. doi: 10.1016/j.ajo.2013.09.020

Tong L, Huang XL, Koh AL, Zhang X, Tan DT, Chua WH. Atropine for the treatment of childhood myopia: effect on myopia progression after cessation of atropine (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン点眼終了後の近視進行に対する効能). *Ophthalmology*. 2009 Mar (眼科:2009年3月); 116 (3) : 572 - 9. doi : 10.1016/j.ophtha.2008.10.020 Epub 2009 Jan 22,

Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% doses (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン0.5%、0.1%、及び0.01%を点眼した場合の安全性及び効能 (進行度2の近視治療にアトロピンを使用した場合)). *Ophthalmology*. 2012 Feb (眼科:2012年2月); 119 (2) : 357 - 54. doi: 10_1016/j.ophtha.2011.07.031.

Chua WH, Balakrishnan V, Chan YH, Tong L, Ling Y, Quah BL, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia (小児近視治療用アトロピンについて), *Ophthalmology*. 2006 Dec (眼科:2006年12月); 113 (12) 2285 - 91. Epub 2006 Sep 25.

マイオピン点眼薬が選択される理由

アトロピン配合点眼薬は、近視の進行を抑制させる点で統計的にも臨床的にも顕著な効果が確認されている唯一の治療法です。アトロピン1%は1960年から近視治療用に使用され続けています。しかし、アトロピン1%では下記のような不快な副作用を生じることが報告されています。

1 瞳孔の拡張 (散瞳) に起因するまぶしさがでます

2 目の遠近調節機能 (短焦点機能) の低下を理由に近くの物がぼやけて見え、読み書き等近くを見る必要がある作業に困難が生じることがあります

3 アレルギー性結膜炎及び皮膚炎の発症の報告があります

マイオピン (アトロピン0.01%点眼液) は、アトロピンの局所点眼を超低濃度で処方することにより、最適に近視の進行を抑制することが期待され、同時にアトロピン1%による不快な副作用を回避します。

マイオピン点眼薬の安全性について

シンガポール国立眼科センター (SNEC) の研究によりますと、アトロピン0.01%の効果は点眼後、徐々にでできます。²⁾

1 アレルギー性結膜炎及び皮膚炎はほとんど引き起こしません

2 眼圧に影響を与えません

3 白内障などの眼疾患も生じません

4 点眼終了後も目の遠近調節、または恒久的な瞳孔の拡張機能が喪失することはありません

5 網膜の機能に一切影響を与えません

(参考文献)

2)

Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% doses (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピン

について、アトロピン0.5%、0.1%、及び0.01%を点眼した場合の安全性及び効能(進行度2の近視治療にアトロピンを使用した場合)). Ophthalmology. 2012 Feb(眼科:2012年2月); 119 (2) : 347 - 54, doi: 10.1016/j.optha.2011.07.031.

診察・治療の手順

まずは、ご本人と保護者の方、ご一緒に受診して下さい。院長から直接治療についての説明をいたします。治療の承諾が得られたなら、自由診療として治療を開始します。

当院では、裸眼視力、0.7以下の場合、必ず眼鏡を使用して頂きます。0.7以上でも必要であれば、眼鏡を使用して頂きます。適切な眼鏡をかけることにより、近視の進行は抑制されることも知られています。

点眼薬は1本(約1か月分) 3,000円 (クレジットカード使用は不可)

以後の検診も健康保険の適応外です。3~6か月毎の検診は1,000円かかります。詳しくは、院長が診察時に直接説明いたします。